

リバルエン®LA パッチ 25.92mg／リバルエン®LA パッチ 51.84mg 発売後の副作用報告状況

2026 年 7 月
東和薬品株式会社

本資料は、リバルエン LA パッチ発売（2025 年 5 月 28 日）後に当社が収集した副作用情報について、医療機関の皆様へ情報提供することを目的として作成しました。

1. 副作用情報の集計

これまでに医療機関から報告いただいた副作用情報は以下のとおりです。

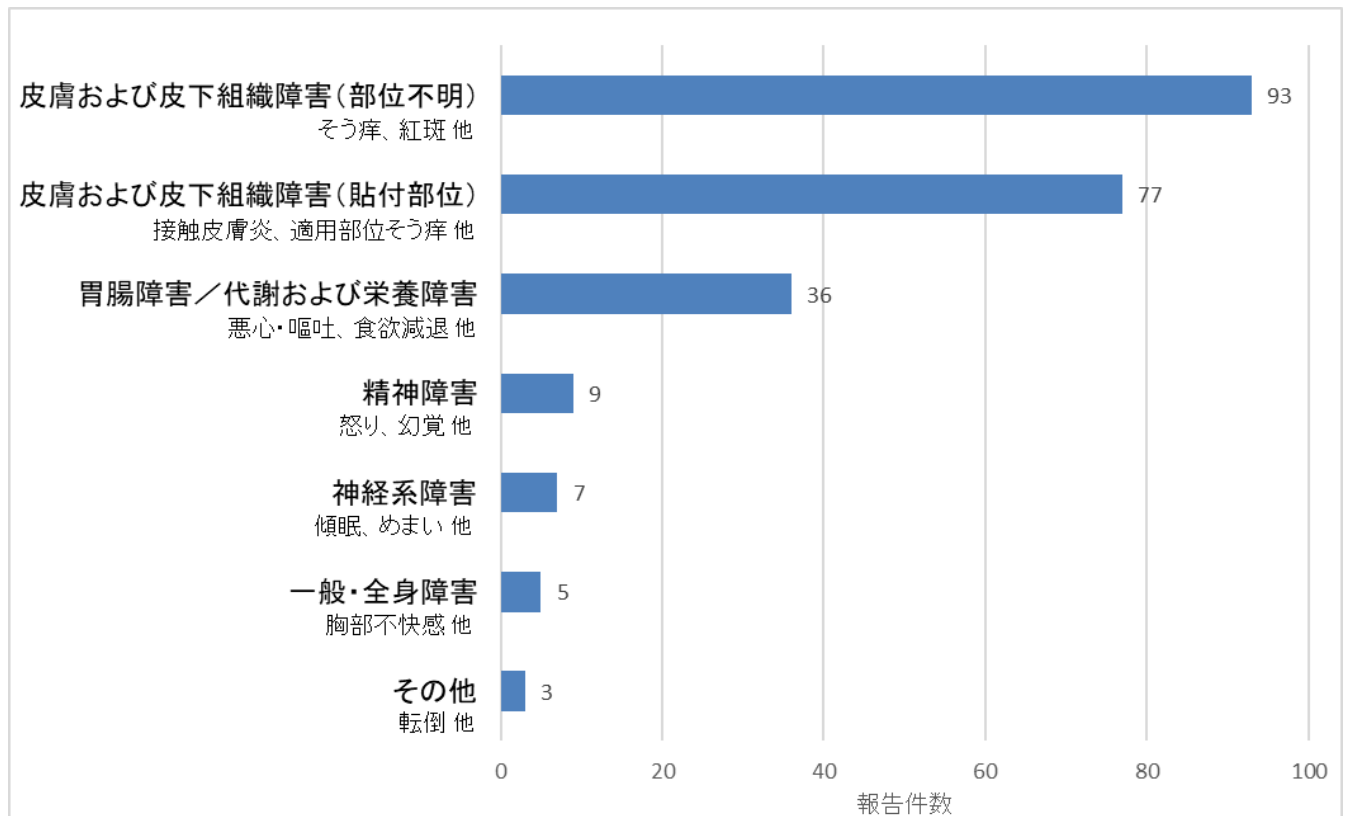
「皮膚および皮下組織障害」に分類される事象が最も多く 144 例 170 件、次いで「胃腸障害／代謝および栄養障害」が 31 例 36 件報告されました。いずれも副作用として電子添文に記載の症状で、そのうち重篤例はケロイド 1 例、食欲不振 1 例、本剤投与を中止された後、転院等により転帰は不明でした。

集計期間：2025 年 5 月 28 日～2026 年 5 月 31 日

副作用報告数：190 例 230 件

集計単位：事象件数ベース

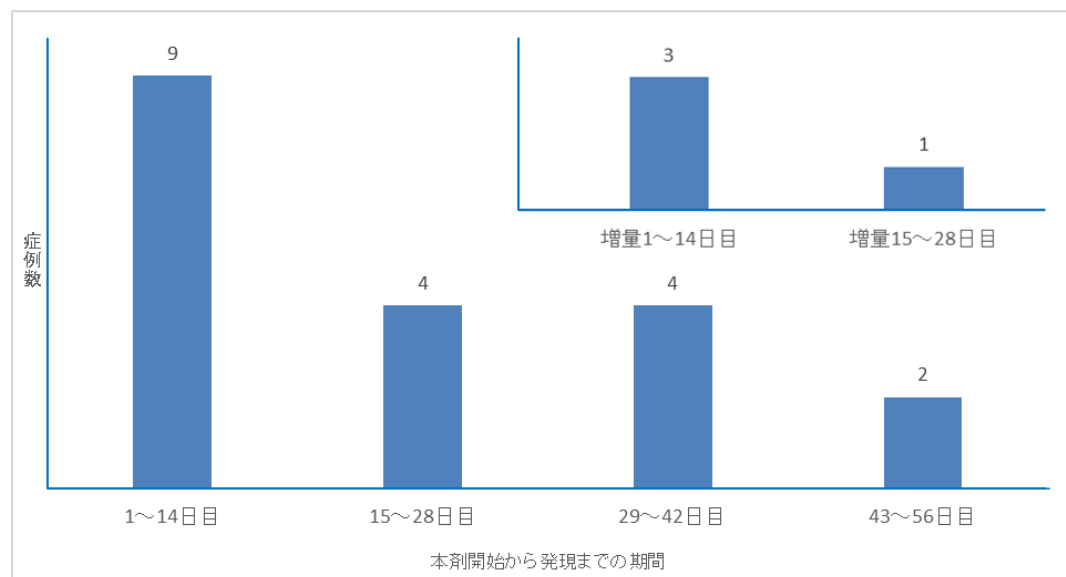
MedDRA/J ver.29.0 に準じて作成



※今後の調査により件数等が変更される場合があります。本剤との因果関係が明らかではない事象も含まれています。

2. 皮膚関連事象発現までの期間

皮膚関連事象について、本剤開始から発現までの期間を示しました。投与開始または増量後早期に発現した事例が報告されています。なお、本集計は発現日が確認できた症例を対象にしています。



3. 皮膚関連事象への処置内容

皮膚関連事象が報告された 144 例のうち、本剤投与を中止した症例は 87 例、減量は 5 例、投与を継続した症例は 20 例、不明は 32 例でした。

本剤投与中止後に軽快又は回復が確認された症例は 45 例、未回復 1 例、転帰不明 41 例でした。

皮膚関連事象への対症療法としては、外用剤使用などが報告されています。

症例	概要
症例 1	リバルエン LA パッチ 25.92mg を開始後、接触性皮膚炎が発現した。 貼付部位にモメタゾンフランカルボン酸エステルローション使用後、接触性皮膚炎の再発なく本剤継続した。
症例 2	リバルエン LA パッチ 25.92mg を開始した 4 週間後、リバルエン LA パッチ 51.84mg に増量した。 増量した同月、貼付部位の紅斑及びそう痒が発現した。 ベタメタゾン吉草酸エステルローションを使用後、症状は軽快し本剤継続した。
症例 3	リバルエン LA パッチ 25.92mg を開始後、紅斑が発現した。 プレドニゾロン吉草酸エステル酢酸エステルローション使用で、症状はコントロールされた。 リバルエン LA パッチ 51.84mg へ増量時にローションの処方を終了した。

※患者背景、重症度等により対応は異なるため、治療にあたっては個々の患者状態をご考慮ください。本資料は特定の治療法を推奨するものではありません。

＜参考＞リバルエン LA パッチの電子添文

8. 重要な基本的注意

8.3 本剤の貼付により皮膚症状があらわれることがあるため、貼付箇所を毎回変更すること。皮膚症状があらわれた場合には、ステロイド軟膏又は抗ヒスタミン外用剤等を使用するか、本剤の減量又は一時休薬、あるいは使用を中止するなど適切な処置を行うこと。